

平成28年度第1回青梅市美術館運営委員会会議録

平成28年4月25日（月）

青梅市立美術館第1研修室

会議時間 14:00～15:00

出席者 委員6名、教育長

教育部長、事務局3名

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 教育長あいさつ

4 報告事項

(1) 平成27年度青梅市立美術館事業結果について

ア 展示事業について

イ 普及事業について

ウ その他の事業について

エ 展示室研修室貸出使用状況について

オ 入館者数について

カ 収蔵資料について

キ 広報、広告について

ク 施設整備について

事務局から説明

(了承)

(2) アンケート結果について

事務局から説明

(了承)

(3) その他

特になし

〔主な質疑・応答・意見〕

(委員) 企画展、普及事業として実技講座が何点かあるが、今回水彩画の展示をしている時期に、なぜジャンルの違う石膏デッサンの講座を実施したのか。また、実技講座やギャラリーガイドの参加人数が少ないが、市としてアピールする方法が何かあるのではないか。

(事務局) 参加型の実技講座は広く生徒を募集して盛んにしようという意図はある。展覧会に合わせた形で実施したいが講師との取り合

せでなった結果である。もう少しいろいろなところで、広報活動や各種団体に働き掛ける等工夫が必要だったのではないかと反省点として今後の課題としたい

- (委員) 小中学校の展示会は参加する人、見に来る人は多かった。小中学生に対して美術館で何をやっているかと伝える方法があるのか。
- (事務局) 小中学校とは今までもいろいろな展示に際し活動はしている。校長会や小学校の造形作品展では開催に向け定期的に会を設けたりしているが、もっと小中学校と連携していけば観覧者増にも繋がると思う。
- (委員) 美術館には収蔵作品の目録のようなものがあるのか。また、あるとすれば誰でも閲覧できるのか。
- (事務局) 美術館目録を作成しており、現在1および2を販売している。市の図書館のほか主要な美術館、国会図書館にも納本してあり見る機会はある。
- (委員) 最近メディアとして、費用を掛けなくてもツイッターとかで発信できる手段がある。適切に発信していれば講座の普及も含めて可能な時代と思う。
- (委員) 美術館は、本来であればリニューアルして、若い人が入っていないとさびれていく。これほどメディアが多様化していると、本物を見なくてもインターネットで見られる。実際、本物を見たり触ったりすることがなくなると美術教育からかけ離れていく。美術館の役割というのは、非常に大事になってくる。ホームページに簡単にアクセスし、小学生が自由に出入りできるような場を設けないと本物に触れる機会がどんどん減っていく感じがする。
- (委員) 一般の市民の方は、美術館に入りづらさがあるようで、ちょっと遠ざかって行くのかなと思う。もう少し一般市民になじむような展覧会をしていただけたらなと思う。
- (委員) 学習指導要領の総則の最後に、家庭や地域との連携を深めることが書いてある。青梅市には多摩高校と青梅総合高校の2つの高等学校があり、地域によっては総合的な学習の時間などで連携している。小中学校には美術の先生がいるので、そこへ働きかけるのもひとつの方法かと思う。ギャラリートークであるとか、そういうことを子どもたちが行こうということになれば、

生徒も含めて親の集客も考えられると思う。

(事務局) 今後の参考とさせていただきご意見を各委員からいただいた。一言で学校教育と、生涯学習、社会教育と連携といった簡単な言葉で片付けられないいろいろな問題がその中にあると思うが、今後各委員の意見をもとに美術館として地域、高等学校との連携ができるように努めてまいりたい。

(事務局) 事務局から報告事項を2点。初めに、2年に一度開催している公募展ビエンナーレOME2017を平成29年の2月25日から3月20日まで実施する予定である。公募展については、2年前のビエンナーレOME2015を開催する際に、応募数減少の対策として、賞金制度の見直しや応募者の要件を都内在住・在勤・在学に拡大したり、作品の輸送に際して宅配の斡旋をしたりするなど改善策・梃入れ策を取ってきたが、応募者数が減少に転じてしまった実情がある。今年のビエンナーレOME2017についても周知を工夫して応募者数の増に努めていきたいが、応募者数が減少した場合に、今後の在り方について縮小や休止も検討していきたいと考えている。その際には、運営委員会の先生方と密に連絡を取り相談していきたいのでご承知おき願いたい。

もう1点は、文化課を構成している市立美術館・郷土博物館および市民会館の3つの施設のうち、市民会館が来年の3月末で活動を休止する。平成29年4月から31年3月まで2年間をかけて新しい施設に建て替える予定である。市民会館で実施していた様々な展示活動について、今後、美術館1階の市民ギャラリーを市民会館の代わりとして利用していただく可能性があると考えている。市民ギャラリーを活用している団体にご無理やご迷惑をかける2年間になることが予想されることから、委員の皆さんにもご理解を賜りたい。

(委員) 市民ギャラリーの日程は、超過密になるのか。

(事務局) 例えば、市民会館で開催していたものに総合文化祭があるが、文化祭の展示もこちらでやっていただく可能性もある。場合によっては圧縮等ご理解願うことがあるかも知れないが、今後、調整させていただくことになる。

(委員) イベントを計画する際、誰が旗振りをして中心になってやれる人がいるのかどうか。例えば、自分の持っているものをきちん

とプレゼンテーションできる、旗を振ってくれる人は青梅にいるのでしょうか。海外の人にとって日本のアニメーション、漫画はものすごく注目度が高い。例えば漫画家とタイアップして美術館でも漫画の展覧会をやるとか、実際、漫画家が来て、子供たちと一緒に描くようなイベントをやったらものすごく受けると思うが、そういうアイデアを出し合ってこうしよう、あーしようという人が何人かいるといろいろなアイデアが湧いてきて集客できるのではないかと思うが。

(委員) いわゆるアートストリート的なことですね。例えば、青梅マラソンなんてすごく盛り上がっているし、5月2日・3日には青梅大祭があるが、それらと連動した作り方を目指さないと単発になってしまうから、毎年市と美術館が一緒になって、前の通りを封鎖してでも何かやるとか、そのように繋げていかないと美術館の存在があまり見えない。是非そうあってほしいと思う。

(事務局) 我々公務員は、凝り固まった発想からなかなか抜け出せないなか、青梅には観光協会や民間でまちづくりをマネジメントする会社もあり、いろいろな場所にさまざまな人材がいると思う。今回、良い話を聞いたので、これから研究していきたいと思う。

5 その他

第2回運営委員会の開催予定：市立美術館運営委員会委員改選後、日程調整後通知する。

閉 会